

『海をめぐ^{ダイアローグ}る対話 ハワイと日本：
水産業からのアプローチ』
小川真和子*著、塙書房、2019年

今野裕子†

20世紀初めから1970年代までのハワイにおける日本人水産業の歴史を扱った本書は、一般の読者を主な対象としながらも、アーカイブ史料やインタビューを元にした最新の知見を取り入れており、研究者にとっても読み応えのある、学ぶべきところの多い一冊である。著者が本書を執筆する動機となったのは、ハワイの日本人移民・日系人史研究における「偏り」を是正したいという思いであろう。序章でも述べられている通り、「日本の海の民がハワイで紡いできた歴史は、陸の民であるプランテーション労働者の体験と大きく異なって」（7頁）いたにも関わらず、従来の研究では後者にばかり光が当てられてきた。そこで著者は、ハワイの食糧供給において重大な貢献をしながらも、文献資料の乏しさからほとんど顧みられることのなかった日本の海の民の歴史に焦点を当て、和歌山県、広島県、山口県の沖家室島や沖縄県の糸満といった地域出身のこれらの人々が「ハワイで出会ったさまざまな人々と、一体どのような対話^{ダイアローグ}を交わしながら生活し、家族やコミュニティを作ってきた」（8頁）のかを解き明かすことを、本書の目的として掲げている。

本書は序、結、本論5章（I～V）と4編のコラムから構成されている。以下、主に本論に的を絞り、まず章ごとにその内容を要約してみたい。

I「ハワイにおける日本人漁業のはじまり」は、ハワイにおける日本人漁業の起源を、前史にあたる海を面とした人の移動の歴史に遡って論じている。古来「海の民」であった日本人漁民が、1885年の官約移民開始による労働移民の解禁によってハワイの海と出会い、当地の水産業に進出するのは自然な流れであった。一方で、日本人移民が入り込む前のハワイでは、ハワイ人や中国人漁民が小規模な漁業を行っており、新参者としての日本人漁民と他エスニックグループの漁民との軋轢は絶えなかった。そのような中でも技術交流は行われ、次第に数を増やした日本人漁民が漁業会社の設立によって近代的商業漁業の発展に指導的立場を取るようになって、国籍や人種を超えた同業者の協調関係は保たれた。

II「ハワイの日本人漁業をめぐる議論と漁労の様子」は、1910年～30年代を議論の中心とし、ハワイ準州議会を舞台とした排日運動やそれに反する国際的協調の動き、またハワイ水産業を取り巻く近代化の動向について詳細が述べられる。業界から日本人を排斥しようとする議会の試みは、カ

* 立命館大学文学部教授

† 亜細亜大学国際関係学部講師
konno@asia-u.ac.jp

リフォルニア州に倣ったものであったが、日本人漁民の貴重な働きを重視した準州政府はそのような動きを批判した。一方、第一次世界大戦後の国際的協調を重んじる風潮はハワイにも及び、日本の水産業界と提携した事業も計画された。また1920年代以降は漁船の大型化や水産加工業の拡大が進み、日本人漁民が漁船や漁法の改良に重要な役割を果たした。また、漁業調査や後継者育成に関する議論が活発に行われるようになった。

III「ハワイにおける日本人漁村の生活」は、日本人漁民とその家族の労働や生活、共同体形成の様相を主題として扱う。当初漁民は独身者が多かったが、結婚して家庭を築くようになると、ハワイ各地の漁港周辺に日本人漁村が形成された。日本人女性移民の典型とされる写真花嫁とは違い、漁村の女性は郷里の青年団体の世話によって渡航する場合も多かったが、この他にも陸の民とは異なる際立った特徴を有していた。漁民である男性の不在が長い間、家庭や地域社会における女性の役割は大きく、また缶詰工場で働いたり、魚を売り歩いたりするなどして、水産加工業や流通業の発展に貢献した。結束の強かった漁村では、子育ても地域全体で行われ、人々は海神を祀る神社を中心とした信仰生活を営んだ。

IV「戦争と海」は、1930年代の日米関係の悪化と、続く太平洋戦争の開戦によってハワイ水産業と日本人漁民やその家族が受けた影響を論じている。中国への進出によって勢力を広げる日本を警戒した大統領や海軍は、日本人漁民を帝国主義の手先と見做し、さまざまな規制や圧力によって日本人や二世漁民の排斥を目指した。ハワイ水産業に打撃を与えるこのような動きに抗い、商務省漁業局や準州政府は漁業調査や漁民保護に向けた取り組みを強化させつつあったが、戦争によって状況は一変した。日本人漁船は没収され、漁撈が禁止されるとともに、選択的な強制収容や戦時下の厳しい生活など、漁業続行どころではない状況が日本人共同体を襲った。戦時中のハワイ水産業は壊滅的な打撃を受け、漁村人口も流出した。

V「ハワイの海の戦後」は、戦後のハワイ水産業復興に日本人漁民が果たした役割を詳述する。戦後、日本人共同体は復活したものの、ハワイ水産業の歩みは平坦ではなく、一世漁民の引退に伴って漁業人口は減少し、また、ビキニ環礁での核実験の影響に対する懸念から事業拡大を諦めるなど、困難に直面していた。漁業の停滞に対する一つの解決策となったのが、沖縄からの漁業研修生を受け入れる民間主導のプログラムであった。1960年代に開始されたこの制度を利用し、研修生とは名ばかりの実質的には即戦力となる漁民が多く渡布したが、なかには未経験者も含まれた。人の移動はそれに伴う送金や技術交流を生み出したが、1970年代後半のカツオの不漁が契機となり、ほとんどの研修生はハワイの海を去ることになる。

以上が本書の主な内容である。これに加え、結論では1970年代以降の変化が論じられる。また、章の間に差し挟まれたコラムは、本論で割愛された詳細のほか、聞き取りやフィールドワークに基づく興味深い事例を紹介しており、本論の議論を補う役目を果たしている。

ここからは、本書についての評者の意見を述べてゆきたい。

まず、本書の学術上の貢献は非常に大きいということが言える。導入部でも触れた通り、ハワイの水産業について日本人移民・日系人史研究の立場からこれほど詳細に調べられ、書かれた研究書は存在しない。本書の下敷きとなった英語の研究書は2015年に出版されたが（Ogawa, 2015）、本書はさらに最新の研究成果を盛り込み、内容をアップデートさせている。従来研究が手薄であった第一の理由としては史料の不足を指摘できるが、この壁を乗り越えるため、著者はアメリカ国立公文書館史料、過去の聞き取り調査、独自のインタビュー、新聞記事、地方で発掘した史料など、多彩

な材料を組み合わせ、近年の研究動向も踏まえながら、説得力のある議論を展開している。特に、広義にはハワイ研究にも分類され得る本書の随所に日本の漁村研究の視点が援用されている点は、注目に値する。また、水産業というと漁民が主役になりがちであり、ともすれば男性中心の歴史が描かれるきらいがあるが、本書は漁村における女性の働きや経験に着目し、それが共同体形成の鍵となったことを明らかにしている。政局や国際関係の変化といった大きな流れと、業界の変遷や技術の革新といった出来事、そして男性、女性、子どもなど多様な人々の営みがバランスよく扱われていることも、本書の魅力を増加させる要因となっている。

その一方で、評者はこの本のタイトルと内容の関連性に疑問を抱いた。中心的な主題は日本の海の民がハワイで出会ったさまざまな人々とどのような「対話」を交わしてきたか、という点であるが、この文言から期待されるような、日本の海の民と他エスニックグループとの交渉や交流については、やや断片的な記述にとどまっているように見受けられる。たしかに他エスニックグループとの関係や、人種や国境を超えた協調については多くの事例が紹介されており、また種々の展開の裏には明確に史料に書き残されていない対話が存在したであろうことも想像に難くない。しかし、対話ということばが想像させるのは双方向の会話や議論であるため、より具体的な異文化間、異集団間の交わりや折衝の様相が描かれることを、本タイトルは期待させるのである。

また、これは本書に限らず、水産業に携わる移民の研究全般に関する問題であるが、海の民に焦点を当てることは必ずしも移民研究に革新をもたらすには至っていない、という点を指摘しておきたい。海を生業の場とする人々に焦点を当てることで、たしかに従来看過されてきた諸々の歴史的事実は明らかになるが、「陸」から「海」に視点をずらしたところで、移民研究に斬新な分析枠組みや方法論が導入されるということではなく、あくまでも陸を中心とした移民コミュニティ形成史に、別の1頁が加わったと見るべきであろう。北米の学界においては、水産業の歴史が移民史の観点から研究されることは少なく、自然環境や生態系と関連付けて論じることのほうが主流だが（たとえば McEvoy, 1986; Wadewitz, 2012 など）、真に陸の視点から離れるには、特定の場所に定住して共同体を築くことのない「魚」を中心とした歴史叙述を可能にする、このような環境史的アプローチがヒントになるだろう。もし海の民を主題とした全く新しい移民史を書くとすれば、たとえば複数の海域を動く人の軌跡を辿ったり、海にまつわる知識や技術が移転・伝播されてゆく過程を丁寧に跡付けたりして、従来の研究では指摘されてこなかった共同体やネットワーク形成のあり方を提示するということが、移民研究の限界を突破する切り札になるかもしれない。

上述のような指摘はできるものの、本書が海の民の生き様や世界観を活写した、魅力的な労作であることは疑いようがない。海から見た移民史の書き換えという大きな課題については、評者も含めた北米その他の地域における日本人漁業の研究者が、今後真剣に考えてゆくべきであろう。

参考文献

- McEvoy, Arthur F. 1986. *The Fisherman's Problem: Ecology and Law in the California Fisheries, 1850-1980*. New York: Cambridge University Press.
- Ogawa, Manako. 2015. *Sea of Opportunity: The Japanese Pioneers of the Fishing Industry in Hawai'i*. Honolulu: University of Hawai'i Press.
- Wadewitz, Lissa K. 2012. *The Nature of Borders: Salmon, Boundaries, and Bandits on the Salish Sea*. Seattle: University of Washington Press.